

千田水路の一部かさ上げ

総延長 93 mを加工



平成26年度の施設長寿命化事業では千田水路の改修を行いました。千田水路というのは、八方原橋から高山造庭園さんにつながる、私たちが毎日通る市道沿いです。

路壁を活かすこととしました。東から西へと緩い勾配で流れていきますが、水路が八方原橋に近づくと、少し迂回するような形になるために、十分な水量の確保をするためには、取水口の水位を上げることになります。しかし、あまり上げすぎると水路から水が溢れてしまい、適切な管理ができない状況でした。

きましましたが、千田水路についてはコンクリートの劣化も比較的に少なく、現状の水

に鉄筋を追加して、その上にかさ上げする形の工事を行いました。これによって今まで余分に使われていた農業用水が有効に使われることになるはずです。

2月25日、工事を担当した株式会社亀井組の説明を受けて、完成の検査を行いました。どの部分も適切に施工されており、計画通りであったことが確認されました。

八方原自治会総集会
平成27年3月15日(日)
午後7時より
八方原公民館



工事関係者と八方原の環境を守る会とで工事の完成状況を確認

寒さを耐えた麦が伸び始めた

農事組合法人八方原の植えた麦が順調に成長しています。麦は稲と異なり、さまざまの手入れが必要とのこと。これから春に向けて、消毒や防除など大型の管理機械をフル稼働させての作業が始まります。

昨年は麦の生長と稲の植え付けが、ダブるようになりました。田植えの見学に来た上郷小学校の2年生は、コンバインによる麦の刈り取りと、田植え機の活躍を同時に勉強して帰りました。今年はどうかな。



日ごとに緑の色を増す麦の畝

農業の持つ大きな役目を再認識

平成19年から取り組みはじめた本事業は「農地水環境保全向上対策」という限定的な事業でした。政権が換わると内容が大きく変わるといふ経験もしてきました。しかし昨年の国会で「農業の多面的機能の発揮の促進に関する法律」が成立し、今後はほぼ恒久的に事業が続くこととなりました。

農業の多面的機能というのは、農産物の生産だけでなく、治水（洪水防止、川の流れの安定、地下水の保全など）、環境保全（植物、生物環境の保護、学習機会の提供など）、安らぎ機能なども含まれています。今まで取り組んできたことがほぼそのまま新たな法律に適合していくようになるのですが、法律ですので罰則も定められており、一段と厳しさも増してきます。

農林水産省の試算では国全体で洪水防止機能について3兆5000億円の効果があるとしています。その他の地下水の確保や川の流れの安定、土砂の流出の防止などで2兆3500億円、保健休養や安らぎ機能を2兆4000億円としています。

途方も無い金額のようですが、農業と農用地の持つ機能を、国民の皆さんがこれだけ高く評価していることを強く意識する必要があります。私たちの活動はそのごく一部ではありますが、日々の活動が重要な役目を担っているということになります。ついつい日常的な作業についてなおざりになりがちですが、一つ一つが意味のある作業であり、大きな期待を背負っていることを考えましょう。

事業が始まった当初は「来たるべき食糧危機に際して、いつでも農業生産を拡大できるように準備しなくてはならない」ということも、上げられていました。もちろんそうした状況が無くなった訳ではありませんが、農業と農用地の持つ機能についての評価が変わってきたのでしょうか。

先日、地域づくり協議会の話し合いの中で小郡地域の良い点として「八方原地区の農地」というのが上がりました。今回の多面的機能の評価と全く無関係では無いでしょう。「八方原の橋を守る会」としてまた地域住民として、誇りを持つてこの活動に取り組みたいものです。



教育機関との連携も大事な仕事(平成26年6月9日)

阿武川源流保全会が最優秀賞を受賞

中国農政局では毎年優秀な活動団体を表彰していますが、平成26年度は阿武川源流保全会が最優秀となりました。河原地域資源保全会（長門市）、平沼田地域の環境を守る会（山陽小野田市）、福の里農地守り隊（阿武町）に続いて4年連続山口県の受賞です。平成26年度より多面的機能発揮促進事業表彰となり、平成27年1月29日に岡山市で表彰式が行われました。

阿東町嘉年地区は、一昨年の水害では大きな被害を受けられました。しかし地域の人々は、長年にわたり受け継いできた農地や農業施設の復旧に懸命に取り組んでおられます。

構成メンバーの「農事組合法人嘉年ハイランド」は256ヘクタールの受託面積を持つ大きな法人です。農地の集約を図り、農薬や化学肥料を最小限にとどめる努力しておられます。

地域を横断する国道315号沿線には四季折々の花の植栽をし、地元では「フラワーロード」として、親しまれています。また農道法面の雑草を押さえるための「抑草シート」を草刈りがやりづらいたところを中心に総延長6000メートルに設置、大きな効果を上げています。